

東洋大学 完成報告書
(ライフデザイン学部)

1. 学部の教育目標

ライフデザイン学部は、生活支援学科、健康スポーツ学科、人間環境デザイン学科の3学科からなり、QOL(Quality Of Life = 生活の質)という考え方に基づき、自らの生命の営みを含めた21世紀の生活 = ライフをどう描いていくか、その術についての教育研究を行うことを目的とした学部である。

具体的には、超少子高齢化社会において、人々が成長発達の段階や多様な生活場面のなかで遭遇する生活の起伏や負荷、危機、それらがもたらす生活上の困難や障害、さらにはそれらに対する支援の方法、人々の心身の機能や健康の維持や促進、生活環境の整備や街づくり等、人びとの生活とそこに起因する諸問題を、基礎となる関連諸科学を学際科学・複合科学として総合的に分析・理解し、構築したそれらの諸問題に対応する独自の政策や技術のあり方を、理論と実践の両面から学生に修得させることを目的としている。

さらに、従来の疾病、貧困、障害、密住等の問題の発見や、問題への事後的対応から一歩進めて、設計科学という観点から、人類社会の維持発展という将来に向けて、取り組むべき研究課題を自ら積極的に設定していくことで、問題発生の予防や、よりよい環境や状況の構築をしていくことのできる人材の養成を目指す。

これらを総合的に教育するために、学内外の実習の強化や、諸資格の取得を推進し、高度専門職を養成することを学部の目標とする。

以上のことから、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に学部の学生に修得させるべき能力等の教育目標を次のように規定している。

問題探求能力と課題の抽出及び提案能力

課題解決のための目標と解決までの作業プロセスを的確に企画し開示できる能力

他者とのコミュニケーションの必要性を理解し実行できる能力

参加者の規模にかかわらず、異なる思考をもつ多様な人々との対話を重視できる能力

失敗を恐れず継続的改善を目指して自己を検証できる能力

母国語以外の国際的言語によるコミュニケーション能力

さらに、各学科の教育研究上の目的をそれぞれ定め教育をおこなっている。

2. カリキュラムのバランスと教養教育

ライフデザイン学部のカリキュラムは、各専門分野における高度専門職の養成のための科目と、多面的な学問分野の習得による人格形成に資する科目のバランスのとれた配置が特徴である。

各学科の「専門科目」においては、生活支援学科では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭等の諸資格の取得が可能なカリキュラムを、健康スポーツ学科では、少子高齢化時代における人間関係や精神的なストレスなどの健康問題から生涯にわたる健康づくり、スポーツ活動となるインストラクターの養成を標準としたカリキュラムを、人間環境デザイン学科では、建築、まちづくり、日常製品、生活支援機器のデザインを総合的に捉えられる科目群を配置し、実社会からの先端的なデザイン教

育を展開している。

一方、「一般教養的科目」においては、「人間探究分野（12単位選択必修）」「文化間コミュニケーション分野（4単位選択必修）」「スポーツ健康分野」「留学支援科目」の4区分を配置するとともに、「学部共通科目」の中に「情報リテラシー」を必修科目として配置して、バランスのとれたカリキュラムを編成している。

さらに、「人間探究分野」の中に、「読解と表現」「人間と生活の理解」「社会と自然の理解」「経営と管理の知識」「総合」の4領域を設けて、専門教育に不可欠な人権理解、社会学、経営学、コミュニケーション等の知識・能力を育成している。

なお、完成年度を迎えたことに伴い、2009年度より、生活支援学科は障害者や高齢者等の支援を中心とする生活支援学専攻と保育、幼稚園教育資格の取得を目指す子ども支援学専攻の2専攻体制に分離改編し、より専門性を重視する体制とした。また、健康スポーツ学科は、トレーニングに関する専門的な知識や技術を学ぶトレーニング科学コース、地域社会から国際社会に至るまで、幅広くコミュニティスポーツや健康づくりを学習するコミュニティスポーツコース、子どもを対象とした健康指導・スポーツ指導を学習する子ども健康科学コース、高齢者や障がい者を対象とした健康指導・運動指導を学習するユニバーサルスポーツの4コースに再編し、多様な健康・スポーツ指導者資格の取得を目指す教育に目標を強化し、社会的なニーズにより積極的に対応している。

3．導入教育

導入教育については、専門教育への橋渡しとして、「学部共通科目」に、「ライフデザイン学入門」と「生涯発達論」を必修として配置するとともに、生活支援学科では1～4年次までの必修のゼミナール科目を設置、人間環境デザイン学科では少人数制の必修のデザイン教育科目である「デザイン基礎」を設置している。

また、生活支援学科、健康スポーツ学科では入学直後に新入生歓迎行事を実施して、新入生と教員および在校生とのコミュニケーションを促進し、健康スポーツ学科および人間環境デザイン学科ではクラス担任制度や学年担任制度を導入して学習や学生生活の指導等を行っている。

さらに、人間環境デザイン学科では、新入生歓迎シンポジウムを年に3～4回開催しており、学外企業のトップデザイナー、コンサルタント、建築設計者を招請して、早い段階からの専門教育の方向性をアドバイスしている。

4．入学時、進級時などにおける履修指導と履修登録の単位数の上限

入学時および進級時には、学科および事務局のガイダンスを実施するとともに、新入生を対象とした個別履修相談会などを実施し、きめの細かい履修指導を行っている。さらに、各セメスター修了時に学生の単位修得状況を把握し、単位僅少者に対しては一定の基準ので、学科の個別面接を実施している。

1セメスターで履修登録できる単位数の上限は、卒業単位に含まれない教育職員免許状の取得のための科目以外は、24単位（1年間で48単位）に設定している。ただし、生活支援学科生活支援学専攻において、介護福祉士の資格取得を希望する学生については、学力

試験および面接試験を実施したのち、「介護福祉士コース」に所属することで、希望者の各 Semester でさらに 4 単位を超えて履修することができる。

また、人間環境デザイン学科では、3 年次の秋学期より研究室配属を決定して「プレゼミ」活動を展開するとともに、4 年次の演習科目の履修には、所定の必修科目の修得や 3 年次までに 100 単位以上の修得等の条件を付すことで、卒業生の質の保証に取り組んでいる。

5 . 授業評価と F D

学部開設 2 年目の 2006 年度より、学部の自己点検・評価活動および F D 活動の一環として、授業評価アンケートを実施している。対象科目は、専任教員は 2 科目、非常勤講師は 1 科目とし、学部統一フォームで実施している。アンケート結果は、直ちに各教員に通知されるとともに、自己点検・評価委員会が授業アンケートに対するコメント、授業改善の取り組み計画の提出を求めることで、各教員の改善を促している。また、アンケート結果については、以下に述べる「授業改善のための意見交換会」において、参加学生に対して公表している。

ライフデザイン学部では、この授業アンケートを基にさらに効果的に授業改善を推進することと、学生が授業以外でも自由な意見を出すことができる仕組みを提供するために、学内に「意見箱」を設置するとともに、2009 年度秋学期より、「授業改善のための意見交換会」を Semester ごとに開催している。意見交換会への学生の参加者も次第に増加しており、延べ 80 名の学生、教職員が参加し、フリートーク方式で学生と教職員が意見交換を行うことで、教職員による一体的な学部運営が学生側に伝わる良い機会となっている。意見の主なものとしては、資格取得科目と時間割編成の課題、語学教育のニーズ、情報教育の改善、授業に関わる施設環境など多様な意見が出されており、それらについては教授会および各種委員会にて対応を検討している。

なお、全学的な F D 研修会（新任・一般）、シンポジウムとは別に、2010 年度には専任教員 16 名が他板倉キャンパスを訪問し、他学部の F D 活動事例を学び合い、意見交換等を行う F D 交流会を実施するなど、学部独自の F D 活動にも取り組んでいる。

6 . 授業の方法および内容ならびに一年間の授業の計画、成績評価基準の明示

授業の方法および内容ならびに一年間の授業の計画、成績評価基準の明示については、『ライフデザイン学部 履修要覧・講義要項』および Web のシラバスにおいて学生に明示されている。

各シラバスの内容については、担当教員にシラバスの作成を依頼する際に、教授会や書面において、シラバス作成にあたって求められている必須の内容や留意点について周知しており、その中で、

- (1) 各授業科目の学修到達目標を明示すること
- (2) 受講要件（pre-requisite：前提となる授業科目）を明確化すること
- (3) 授業方法・授業計画を明示すること
- (4) 準備学習の内容を明示すること

(5) 成績評価の基準及びその方法を明示すること

(6) テキスト・参考書等を明示すること

を求めるとともに、授業計画については「授業ごとの講義内容の明示」を、成績評価基準については「複数の方法により評価する場合にはその割合の明示」を求めており、学生には詳細な内容が明示されている。

以 上